

1.調査目的等

・義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
 ・そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
 ・学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

2.学校ごとの指標

【短期指標】

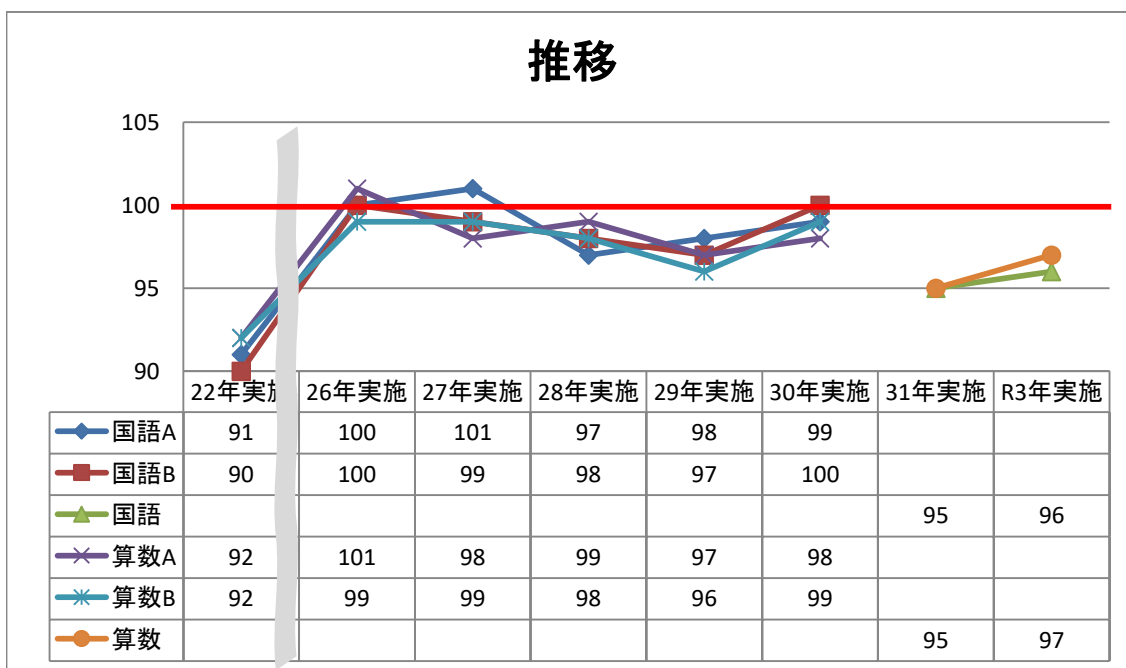
<国語>標準化得点99
 <算数>標準化得点99

3.指標に向けての取組

1. 各学年の算数科学習に重要単元を設定し、習熟度別分割授業を行う。
2. 「問いづくり・思考づくり・価値づくり」のある授業を展開し、研究テーマに基づく授業公開を行う。
3. 専科教員による補充学習を行う。
4. 家庭学習系統表に基づいた家庭学習を実施する。

4.調査結果(全国の平均正答数を100としたときの文科省標準化得点)

	国語	算数
本校	96	97
嘉麻市	95	96
全国	100	100



※ 平成31年度実施から「知識に関する問題(A問題)」と「活用に関する問題(B問題)」を一体的に問う形式に変更

5.各学校における分析

国語・算数とも短期指標である標準化得点99を達成することができなかった。しかし、前年度5年時の福岡県学力調査の標準化得点と比較すると、国語では約11ポイント、算数では約8ポイント上昇している。

1. 算数科では、単元の終末段階でプレテストを行い、習得が不十分な問題については、教科書やチャレンジプリントを使って復習を行うようにした。プレテストの結果から、一人一人の課題を把握し、その課題を克服するために習熟度別分割指導を指導方法工夫改善教員と行ったことは、標準化得点を上げるうえで有効だった。
2. 研究テーマにある「思考づくり」の段階において、自分の考えを書いた後に、対話活動を設定した。対話活動によって、互いの考えを比較したり分類したりして考えを広げたり深めたりすることができた。その考えを付加・修正することによって、自分の考えを広げたり深めたりして書くことにつながった。
3. 毎週火曜日のチャレンジタイムで、指導方法工夫改善教員等の専科教員が各学級に入り、算数の基本的な問題に対する指導を行ったことで、基礎基本の定着を図ることができた。また、宿題の書き直しが難しい児童については、給食準備時間等に専科教員と解き方を確認しながら取り組むことで、基礎基本の学習内容を想起することができた。
4. 家庭学習については、家庭学習系統表をもとに、家庭学習の内容と量を全校で統一して取り組んだ。言語事項や漢字、計算問題、自分の考えを記述する問題等に、毎日取り組めたことは家庭学習の習慣づくりを行ううえで、有効だったと考えられる。しかし、基礎基本の学力や書く能力を高めるための内容を検討する必要がある。

6.各学校における今後の取組

単元構成を工夫し、形成的評価を生かした指導を充実させるとともに、終末段階にける習熟度別・課題別分割授業を実施する。

- ・複数体制による授業の実施
- ・評価後の個別シートの活用
- ・単元を1サイクルとした短期検証⇒期待値通過率85%

朝活動やチャレンジタイムにおける基礎基本の定着

- ・宿題の解説
- ・チャレンジプリント
- ・MIM

書く活動の充実

- ・条件を指定した書く活動の設定(文字数指定・キーワード指定・複数の条件を指定等)
- ・根拠や理由を明確に示して自分の考えを書く活動の設定
- ・自分の考えを付加・修正・強化する対話活動の設定

家庭学習の習慣化

- ・家庭学習系統表
- ・「10分×学年数+10分」の奨励

7.嘉麻市教育委員会としての今後の取組

各学校が自校の課題を明確にするとともに、嘉麻市アクションプラン、嘉麻市学力向上全体構想をもとにした学力向上策を浸透・徹底させていくために、次の7点を中心に取組を進める。

- 学力向上プランを各教室に浸透・徹底させるための短期スパンのPDCAサイクルについて指導・助言を行う。
- 学力向上を図る上で効果のあった取組について共有化を図る研修を企画・運営する。
- 同一集団の学力や学力層の推移に着目しながら、学力向上策の評価・分析を行い取組の検証改善を図るように指導・助言する。
- 校内研修や学校訪問において、「書く活動ポイント9」の活用を促す等、思考を伴う書く活動の徹底指導を図るように指導・助言を行う。
- 学力向上に向けた取組が組織的・計画的に実施できるための指導・助言を行う。
- 家庭学習の習慣化、個別化に向けた取組についての交流や指導・助言を行う。
- 主幹教諭研修会において、それぞれの学校種の課題に即応する研修内容を工夫する。